

しょうがくせい みな
小学生の皆さんへ

しんがた
新型コロナウイルスのニュースでいっぱいの毎日です。でも、かんが
考えさせられることがたびたびありま
す。とく わたし こころ いた
特に私が心を痛めている話題について、きょう はなし おも
今日はお話したいと思います。それは、AFP（フランス
つうしんしゃ つた
通信社）が伝えていた、「アジアの巨大スラムを襲う新型コロナの脅威」という記事です。その中で
と あ
取り上げられていた、じんじょせい
フィリピン人女性アベスさんは、わたし
私がかつてフィリピンのスラム（まず ひとびと
貧しい人々が
く
暮らす町）で出会った人々の姿に重なって映り、忘れられなくなりました。

アベスさんは、マニラのトンド地区に住んでいます。トンドとは、ほくせいぶ うみぞ
マニラ北西部の海沿いにある、世界
てき し
的に知られたスラムです。トンドではせまいところにたくさんの人（ひと）が住んでいます。その混みぐあいは
にほん ばい
日本の200倍。どんなきびしい環境（かんきよう）で人々がぎゅうぎゅうに暮らしているのか、わたし
私たちには想像（そうぞう）で
きないくらいです。かんせんしやうぼう
感染症予防のため、ひと あいだ
人との間の距離（きょり）を取る（と）ことや、て せいけつ たも
手を清潔（せいけつ）に保つ（たも）ようと、
とうぜん
当然、どこの国（くに）でもよびかけられているでしょう。しかし、スラムで暮らす人々（ひとびと）にとって、それはもとも
とできないことなのです。スラムではりょうり せんたく ごらくなど
料理、洗濯、娯楽（ごらく）等、生活（せいかつ）のほとんどが、ひと あつ ばしょ おこな
人の集まる場所（あつ）で行
われます。しょうどくえき
マスクや消毒液（しょうどくえき）どころか、わたし
私たちにとって当然（とうぜん）の家族（かぞく）だけが使える（つか）トイレ（せいめんじょ）も洗面所（せいめんじょ）もない
のです。「スラムはかんせんしやう
感染症（かんせんしやう）がかくだい
拡大（かくだい）するのにひつよう
必要な条件（ひつよう）がすべてそろっている。」ということば
言葉（ことば）が、わたし
私の
こころ おも
心に重（おも）くのしかかりました。

せかいぎんこう ちょうさ ねん
世界銀行（せかいぎんこう）の調査（ちょうさ）（2017年）によると、ひがし
東（ひがし）アジア・たいへいようち いき
太平洋（たいへいようち）地域（いき）では、おく
2億5000万人（おく まんにん）もの人々（ひとびと）がスラ
ムで暮らしているとのこと（こと）です。このせかいてき しんがた
世界的（せかいてき）な新型コロナ（しんがた）感染症（かんせんしやう）のかくだい
拡大（かくだい）で、スラムではいったい何が
おこっているのでしょうか。フィリピンでかんせんしやう
感染者（かんせんしやう）数が（ひ）日に（ひ）にふ
増（ふ）えているというニュース（み）を見（み）ながら、
そのかず
数（かず）にすらかず（かず）してもらえない（かぞ）かもしれない人々（ひとびと）のこ（こ）を（おも）思（おも）っています。みな
皆さん（みな）も、かんせんしやう
感染症（かんせんしやう）が（お）終わ（お）るこ
とを（ねが）願（ねが）って（いの）祈（とき）る時（とき）には、せいかつ
スラム（せいかつ）で生活（せいかつ）せざる（え）を得（え）ない
ひとびと
人々（ひとびと）のこ（こ）を、ぜ（おも）ひ、だ
思（だ）い出（だ）して（だ）みてください。

